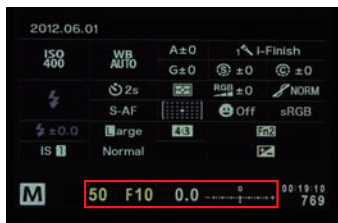


マニュアル撮影

Keyword 絞り/シャッター速度/BULB

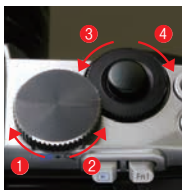
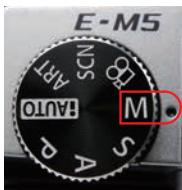
露出をはじめ、全ての機能設定を撮影者が決められるのがマニュアル撮影。明るさ、動き、ボケなど全て自由に設定できる反面、使いこなすには知識が必要なので上級者向きだ。

1 マニュアルとは？



P、A、Sモードでは、カメラが自動で露出決定してくれるが、Mモードでは絞りとシャッター速度を自由に設定できる。シャッターを数分間開け放つ長時間露光や、大型ストロボ使用時など、**露出をすべて任意で決めたいときはこのモードを使う。**

2 マニュアル撮影のシャッター速度と絞り値の設定方法



モードダイヤルをMに設定した状態で、メインダイヤル①②を回しシャッター速度、サブダイヤル③④を回して絞り値を設定できる。

メインダイヤルでシャッター速度



左に回すと①シャッター速度が遅くなる。

右に回すと②シャッター速度が速くなる。

サブダイヤルで絞り値

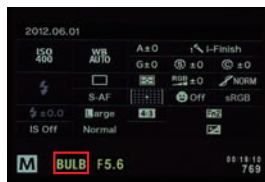


左に回すと③絞り値が小さくなる。

右に回すと④絞り値が大きくなる。

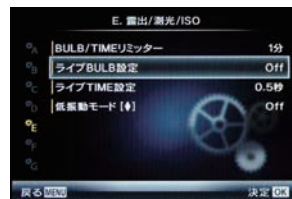
3 BULB撮影とLIVE TIME撮影

Mモードでメインダイヤルを一番左まで回すと、**BULB撮影**または**LIVE TIME撮影**が選択できる。BULBはシャッターボタンを押している間シャッターが開く。LIVE TIMEはシャッターボタンを一度押すと開き、もう一度押すと閉まる。打ち上げ花火や夜の車のライトの光跡などの撮影に活用できる。



ONE POINT 露光が見えるライブBULB設定・ライブTIME設定

BULBあるいはLIVE TIMEの撮影中、一定時間ごとに露光の途中経過を背面モニターに表示させることができる。最適な露光を実際に見て確認できて便利だ。表示の更新間隔は、メニューの[カスタムメニュー]の中の[E 露光/測光/ISO] - [ライブBULB設定]あるいは[ライブTIME設定]で設定できる。初期設定ではライブBULB設定は[Off]になっている。



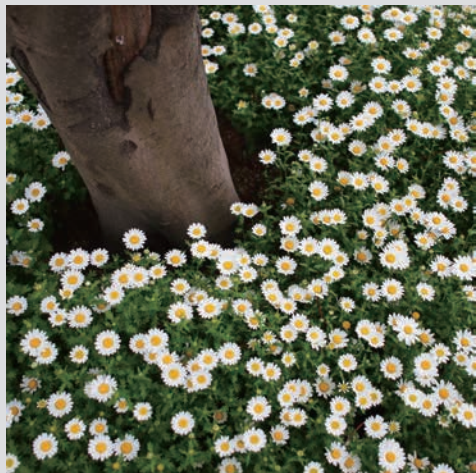
要点

- マニュアル撮影では全ての機能を、撮影者が個々に設定できる。
- シャッターを開いたままにできるBULB撮影やLIVE TIME撮影などもできる。
- 1秒以上の長時間は「1"」などと表示。それ以外は「4000」など分母のみ表示される。

花をさまざまなイメージで撮る

Keyword ピクチャーモード／マクロ

花の撮影では、花に対するカメラの位置に特に気をつけたい。画面いっぱいに撮るときは、**わずかな角度や距離の違いが仕上がりに構図に影響**し、それによってイメージも大きく変わる。アップにするほど背景はボケやすいが、基本は余計なものはいれないように心がける。色を印象的に見せるために、**ピクチャーモードをうまく使いわけるとよい**。



見下ろすアングルでかわいらしいイメージで

群生する小さな花はまとめて見せるのも一案。画面全体にピントを合わせるため、見下ろすアングルで撮っている。この角度なら、背景処理の心配もいらない。1：1で花のかわいらしさが強調された。

撮影モード	A (絞り優先)	絞り	F2.8
シャッター速度	1/60秒	露出補正	+0.3
使用レンズ	SIGMA 19mm F2.8 EXDN		
焦点距離	19mm	ホワイトバランス	AUTO

1 アップで捉えて華やかさを強調

アップで撮影



NG



いちばん見せたい部分にピントを合わせて、大きく撮るのが基本。アップでは少しカメラが動くだけでも構図が大きく変わる。画面の隅々まで目を配りながら、構図を決めたい。

撮影モード：A (絞り優先) 絞り：F4 シャッター速度：1/100秒 露出補正：0 ISO感度：200 使用レンズ：SIGMA 19mm F2.8 EXDN 焦点距離：19mm ホワイトバランス：AUTO

2 ピクチャーモードを使いわける

i-Finishで撮影



naturalで撮影



vividで撮影



ピクチャーモード (→P.62) を選んで設定すれば、色彩を仕上げたいイメージに近づけることができる。**i-Finish**はメリハリと鮮やかさを強調した万人受けする仕上がりで、プリントにも向いている。**Natural**は適度な鮮やかさが心地よく、**Vivid**では緑や赤の鮮やかさが強調される。

■ フィルターごとのタイプ例

タイプは、フィルターごとに色の違いや効果の強弱とさまざま。

トイフォトの場合

タイプⅠ (標準)



タイプⅡ



タイプⅢ



タイプⅠはアンバー調。Ⅱはクールなブルー調。Ⅲはマゼンタ調だ。元々はおもちゃカメラのレンズコーティングやフィルムのカラーバランスを崩した様子を模している。自分の好みで選ぶとよい。

ラフモノクロームの場合

タイプⅠ (標準)



タイプⅡ



タイプⅠはコントラストが強く、Ⅱは弱め。そのためⅠは明暗の差が大きく荒々しく、Ⅱはその差がやわらぎマイルドな仕上がりに。

■ 効果の設定

アートフィルターに効果を追加すると、さらに仕上がりに変化がつけられる。ここではリーニュクレールをベースに、全効果を紹介するが、フィルターによっては対応する効果が変わる。

フィルター未使用



リーニュクレール



タイプⅠで撮影。

+ソフトフォーカス効果



画面全体に紗がかかったような、やわらかな雰囲気になる。やさしい印象にしたいときに。

+ピンホール効果



四隅を徐々に暗くし、トイカメラ風に。画面中央付近に主要被写体を配置するとよい。

+ホワイトエッジ効果



ピンホールと逆に四隅を白く仕上げる。明るいイメージの被写体が似合う。

+アートフレーム効果



写真フィルム用引き伸ばし機のフィルム固定枠を想定。独特の緑でアナログ風の演出。

フィルター未使用



+スターライト効果



ヘッドライトやイルミネーションなど、光る部分に光芒をつけてキラキラ感をアップしてくれる。

3 アートフィルターブラケット撮影

一度に種類の違う複数のフィルター画像が撮れるのがアートブラケット。設定数が多いと記録に時間がかかるので、最低限の選択と、カード残量に余裕があるときに使おう。



モードダイヤルをARTに合わせ [ART BKT] を選択。OKボタンを押すと、全フィルターがアートフィルターブラケットに設定される。



設定するフィルターを選ぶには、[ART BKT] を選んだ状態で▷を押す。



△▽で不要なフィルターを選択。▷を押して△で [Off] を選びOKボタンを押す。

要点

- モードダイヤルからアートフィルターを設定すると、[タイプ] と [効果の追加] が選択できる。
- フィルターに効果を組み合わせることで、さらに多彩な表現ができる。